

No.2 地域の特色を生かした「吟のいろは」の産地化の実現

- 活動期間 令和2年度～令和3年度
- 対象者名 松山町酒米研究会（吟のいろは栽培者 10人）
- 課題の背景
 - ・「吟のいろは」古川農業試験場で育成された品種で、大粒で心白発現率が高い特性を持つ酒造好適米であり、柔らかくふくよかな味の酒ができると実需者からの期待も大きい。
 - ・松山町酒米研究会では、令和2年度は8名で6.7ha、3年度は10名で約8haを栽培しており、「吟のいろは」に対して大きな期待を寄せている。
 - ・前年度は4か所の展示ほを設置した。目標収量構成要素を仮設定し、現時点で理想とする肥培管理を実施した展示ほでは全量特等に格付けされたが、まだ新しい品種であることから、早期に栽培管理技術を習得する必要がある。
 - ・県の優良品種でないため、次年度以降は県と契約締結した民間会社から種子が供給される予定。栽培の継続のためには、今後も種子の安定供給が必要である。
 - ・酒造組合及び所属する蔵元を訪問し、「吟のいろは」に対する意見聴取を行った。いただいた意見を生産者に伝え、実需者が望む原料を提供していく必要がある。

令和3年度

目 標	活動事項	普及活動のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ■ 「吟のいろは」の栽培技術を習得し、高品質な原料米を生産する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 栽培管理技術確立支援 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 目標収量構成要素を再度説明し、4展示ほを設置、育苗時から巡回指導を行った。 ■ 移植後は研究会員と一緒に生育調査を実施し、結果はフィードバックした。追肥時の打ち合わせでは生育状況を説明した上で時期、量を設定することができた。これにより、情報を生産者で共有し、前向きに栽培に取り組むことができている。 ■ 目標生育量は概ね確保し、順調に生育している。今後は収穫～出荷までの支援を行い上位等級を目指す。 
<ul style="list-style-type: none"> ■ 産地として生産振興を図るため必要な種子を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 関係機関と連携した産地化支援 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多くの関係者が情報共有し、打ち合わせ等を行いながら、産地化支援ができるよう取り組んでいる。 ■ 県酒造組合及び蔵元と意見交換を行い、「吟のいろは」について良好な感触を得たが、酒の方向性や位置づけはまだ試行錯誤の段階であった。多くの蔵元に使用してもらえるよう、今後も働きかけていく。 ■ 種子の安定供給を考慮し、2年産種子を低温保管した。また、元年産種子も使用可能であることを確認した。 

意図する対象の変化（最終年度）

- 「吟のいろは」の栽培技術を習得し、高品質な原料米を生産する。
- 産地として生産振興を図るため必要な種子を確保する。

数値目標：農産物検査における「特上」「特等」割合

R元年 0% → R2年 10%(実績9.1%) → R3年 25%